

「周波数資源開発シンポジウム 2011」開催のお知らせ

一般社団法人電波産業会は、独立行政法人情報通信研究機構との共催により「周波数資源開発シンポジウム 2011 -災害に強い無線通信-」を開催します。

この度の東日本大震災による被害は、通信インフラの構築、運用に大きな教訓を残しました。大規模な輻輳が発生するとともに、固定電話網の交換局や光アクセス回線は津波で流される等の被害を受け、携帯電話網の基地局に具備された非常用蓄電池や発電機も想定を超える停電の長期化により次々に使用不能となりました。

通信インフラの早期復旧にあたっては衛星回線が活躍し、避難場所への衛星電話の設置や、衛星アンテナを積んだ移動基地局による携帯アクセス網の構築が行われました。固定電話よりも迅速に復旧が進んだ携帯電話サービスですが、災害時において迅速に確実な無線通信を提供するためには課題も多く残されています。大規模災害が続く昨今、柔軟で迅速に通信を提供できる無線通信は、災害非常時に不可欠な通信手段として再認識されています。

「災害時に求められる通信」とはどのようなものか、本シンポジウムでは被災地が実際に直面した状況をふまえ、より一層安心で安全な無線通信を実現するための技術や政策、取り組み等について、産学官の専門家による講演を行います。

研究者や専門家のみならず、多くの方の参加を心からお待ち申し上げます。

記

- 1 日時 : 平成23年10月31日(月) 13時から
- 2 会場 : 明治記念館(東京都港区元赤坂2-2-23)
- 3 主催 : 一般社団法人電波産業会
独立行政法人情報通信研究機構
後援 : 総務省(予定)
協賛 : 情報通信月間推進協議会
- 4 テーマ : 「災害に強い無線通信」
- 5 定員 : 250名
- 6 参加費 : 無料
- 7 問合せ先 : 当会 波戸(TEL: 03-5510-8593 e-mail: hato@arib.or.jp)

詳しくは、当会ホームページでご案内いたします。

(<http://www.arib.or.jp/osirase/seminar/index.html>)

Web サイト『ARIB「CEATEC JAPAN 2011」出展概要』 開設のお知らせ

今回で 12 回目を迎えるアジア最大級の IT・エレクトロニクス総合展『CEATEC JAPAN 2011』が 10 月 4 日(火)から 5 日間、幕張メッセにおいて開催されます。

当会は同総合展示会に協賛するとともに、ARIB 独自ブースを設け、最近の事業活動をパネル展示と担当者による説明によりご紹介し、また、本年は電波功績賞を受賞された技術やシステムの実機やパネル展示によるご紹介なども行います。

これに併せて、ARIB 出展内容のご紹介を当会の Web サイトにより、展示会開催前から行っています。

当サイトでは、出展概要に加えて ARIB ブースの様子(写真)やブースに展示するものと同じ 6 枚のパネル(①ARIB の概要、②放送への取り組み、③移動通信への取り組み、④ITS への取り組み、⑤電磁環境への取り組み、⑥ICT 国際競争力強化への取り組み)などがご覧いただけます。

閲覧は、当会のホームページ (<http://www.arib.or.jp/>) からアクセスしてください。ぜひ、ご覧ください。また、ARIB ブースにもお立ち寄りください。

ARIBの動き

第 184 回技術委員会(放送分野)を開催

第 184 回技術委員会(放送分野)を開催しましたので、その概要をお知らせします。

- 1 日時 平成 23 年 9 月 28 日(水) 午後 2 時から 3 時 30 分まで
- 2 場所 当会第 2 会議室
- 3 議事概要
 - (1) 第 81 回規格会議の結果の報告
 - (2) スタジオ設備開発部会の活動状況の報告
 - (3) ISDB-T インターナショナル技術調和 WG の主要結果の報告
 - (4) 第 5 回 APT 準備会合(APG2012-5)の概要の報告
 - (5) 「CEATEC JAPAN2011」ARIB 出展の説明
 - (6) ARIB-DVB 会合についての報告

超高速インターネット衛星「きずな」(WINDS) の利用実験について

WINDS は、衛星回線を介した広範囲な地域間での高速大容量通信を提供する目的で、平成 20 年 2 月に打ち上げられ、衛星開発機関 (JAXA (宇宙航空研究開発機構) 及び NICT(情報通信研究機構))が実施する基本実験と、WINDS 利用実験実施協議会が行う国内外の大学、研究機関等が衛星アプリケーション開発のために実施する利用実験が実施されております。

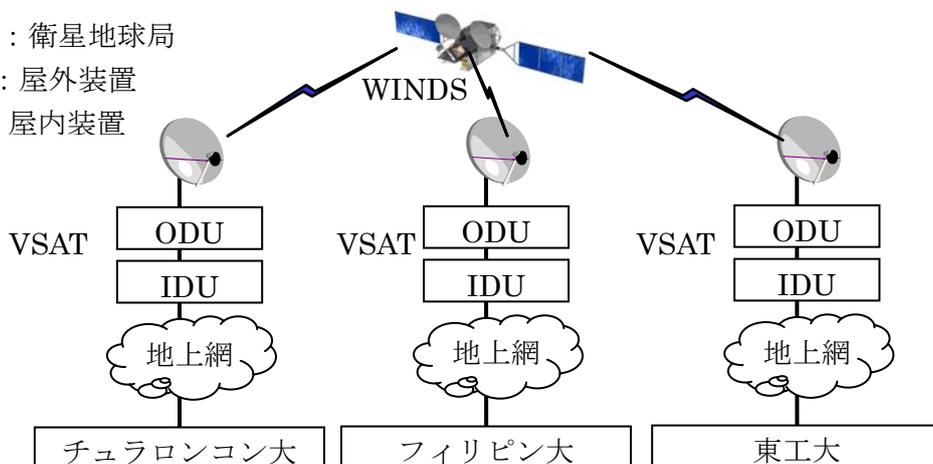
ARIB ではこの WINDS 利用実験実施協議会の事務局として、実験実施の支援や実験環境の構築などで利用実験に寄与させて頂いております。

利用実験では衛星インターネットに適した遠隔教育、遠隔医療などのアプリケーションの開発、評価が行われております。遠隔教育実験の東工大、フィリピン大学、タイ チュラロンコン大学間のストリーミング伝送実験の様子と、その際の WINDS ネットワーク構成図を下記に示します。



東工大、フィリピン大、タイ チュラロンコン大の遠隔教育アプリケーション実験の様子

VSAT : 衛星地球局
 ODU : 屋外装置
 IDU : 屋内装置



実験の際の WINDS ネットワーク構成

高度無線通信研究委員会

IMT Partnership 部会 副部会長 古賀 正章

(KDDI 株式会社 技術統括本部 技術開発本部 標準化推進室長)



2000年代中盤にIMT Partnership部会配下の3GPP2 WG 主査を務め、数年間のブランクの後、平成23年4月より、IMT Partnership部会副部会長を拝命しました古賀です。IMT Partnership部会のメインは、3GPP, 3GPP2, OMA等の活動状況共有です。今年に入って、M2M(Machine to Machine Communication)標準化を世界的に統合する動きが出現し、日本における検討の受け皿として、IMT Partnership部会の配下に、M2M検討アドホックが発足しました。第1回会合が7月に開催され、M2M検討アドホックの主査を拝命しました。ARIB事務局とTTC事務局のご尽力により、第2回会合からはARIB/TTC合同で検討する体制が構築されました。世界では、M2M標準化統合のためのSDO会合が7月と8月の2回実施され、今年度第4四半期に新M2M標準化団体を設立する意欲的なスケジュールで検討が進んでいます。8月中旬から日中韓欧米で毎週電話会議を行うほどの力の入れようであり、オールジャパンとして無駄の無い強固な検討体制で対応しています。今後の大きな課題は、いかにしてVerticalsと呼ばれるM2M業界団体を巻き込んでいくかです。M2Mが今後大きなビジネスとして爆発的に発展していけるのか、また、その中で日本企業が成功するかどうかの成否がこの標準化活動にかかっているととっても過言ではないでしょう。

私のARIBとの係わりを昔に遡ると、第2世代標準化においては、PDCのエアインタフェース標準であるARIB STD-27の英語版作成作業班のリーダーを務めました。第3世代標準化においては、IMT-2000がFPLMTSと呼ばれていた頃からTTC側からのアップストリーム活動に寄与し、3GPP2発足時のTSG-N(コアネットワーク標準化グループで現在はTSG-Xに改称)副議長を拝命し、それらの活動の中でARIB事務局をはじめとしてARIB側で活動されていた皆様には大変お世話になりました。今回、新M2M標準化団体設立に向けた活動に関与させて頂くことになりましたが、今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

編集後記

「暑さ寒さは彼岸まで」のとおり、今年も秋のお彼岸を過ぎると暑さがおさまってきました。かつて子供の頃、私は風邪をよくひき、医者に聞いたものでした。「風邪をひかないようにするにはどうしたらいいのですか?」と。すると「秋風の吹く頃から、薄着でいて寒さに負けないように鍛えることだね」と、冬でも半袖の内科医は言っていました。(T.K.)

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp